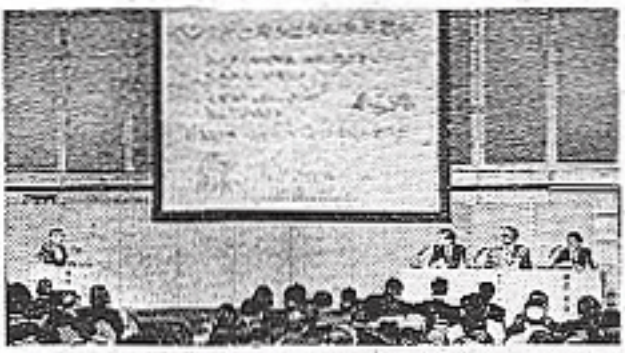
VB投資などでシンポ

ニュービジネス協議会

ニュービジネス協議会（NBC、志太勝彦会長）は十三日、東京・千代田の東京国際フォーラムで「21世紀・グローバル化とニューエコノミーへの挑戦」をテーマに国際シンポジウム（特別後援・日本経済新聞社）を開催した＝写真。東芝の西室泰三会長が基調講演で「ネット株バブルの崩壊は情報技術関連産業が大規模に発展するための生みの苦しみ」と強調。討論会「ベンチャー新時代の到来」ではベンチャー企業（VB）投資の際に経営者の資質を重視する意見が相次いだ。

討論会には、米ウォーバーグ・ピンカス（ジャパン）マネージング・ディレクターのジョン・マッキントッシュ氏、米リードウスデン&アソシエイツのマネージング・パートナー、ジェームス・リード氏、日本テクノロジーベンチャーパートナーズ投資事業組合代表の村口和孝氏の日米ベンチャーキャピタリストが出席。司会はエヌ・アイ・エフベンチャーズの堀井信一社長が務めた。



■今後の投資環境

マッキントッシュ氏　米ナスダックの株価水準はピークの半分だが米インターネット企業の打撃はもっと大きい。今後一年間は利益かキャッシュフローが出ない企業の資金調達は難しい。

リード氏　創業初期のVBへの投資はナスダックの動向とはあまり関係ない。新事業のアイデアは相場の動向と関係なく生まれる。当社の投資回収は市況の影響が出る株式公開よりも出資先企業の売却などを重視する。

公開より売却を重視

■日本の起業意欲

リード氏　日本企業は皆法人。個人の「出るくい」は打たれる。日本は起業家が出にくい。

日本はインフラが壁

村口氏　これから半年間は投資選別によるVBの淘汰（とうた）が起こる。ただ、コスト構造を見直し、生き残れるVBにはチャンスが待ち構えている。

マッキントッシュ氏　起業意欲は日米でそう変わらないが、インフラが違う。日本は良いアイデアがあって資金調達ができても、労働市場の流動性や制度面で壁がある。日本の起業家や投資家は米国のように尊敬されない。

村口氏　歴史的に見れば日本人にも起業精神は十分あり、まじめさが高度成長を支えた。情報技術（IT）革命の行く末に対してまじめに準備すれば自然と起業へ向かうはずだ。

経営陣の資質が大切

■投資の基準

村口氏　経営者は日々の出費を削りながら事業に場面で思い切った投資をするでコンセンサスを得て進み、皆で責任をとる経営手法が必要だ。

マッキントッシュ氏　起業家は日米でそう変わらない。結局、三日三晩徹夜できるような根性が必要だ。

マッキントッシュ氏　経営者個人や社員、顧客の利益より株主の利益を優先できる経営者が望ましい。上場か、事業売却を決断できるかが重要だ。

リード氏　いい加減な市場予測を事業計画書に盛り込み、組合分析していないなど経営者の資質に問題があると判断したとき、投資案件を却下することが多い。